



# 扇小だより

考える子 思いやりのある子 強い子

令和7年度 第23号

51年目

9月12日 児童数705名

新たなステージへ 入間市立扇小学校

## いただいたご指導を生かす

学校長 村越 新

9月11日（木）、令和7年度入間市教育委員会・西部教育事務所による学校指導訪問がありました。名前の通り、教育長様、教育部長様、教育委員の皆様など30名ほどの指導者が、一日学校の様子をご覧になってくださいました。



本校が令和5年度より「**自走する子が育つふるさと扇**」をミッションに掲げて取り組んでいる様々な施策については、高い評価をいただけたと思っています。また、何よりも扇っ子の姿について、非常にありがたい賞賛をいただきました。その一部を紹介いたします。

- ・気持ちのよいあいさつができる子が多い（立ち止まって、目を見て）
- ・六年生の「探究」の取り組みは非常に素晴らしい
- ・子供が落ち着いている。大きな変化が見られる。
- ・学力調査で表れた自己肯定感の高さ、学力の伸びは先生方の支援の成果である。
- ・とても人なつっこい子が多い
- ・一年生の図工では自然に相互評価が始まり驚いた、素晴らしい姿である。
- ・子供が友達の発言をよく聴いている。先生の方をよく見ている。

など

授業については、「**振り返り**」の充実、子供を**見取る**ことの大切さ、一人の「**問い**」を全体に広める支援についてなどなど、貴重なご指導をいただきました。

ネットを長時間利用している子、遅くまでゲームをしている子については、保護者への協力に頼らず、子供たちにも今のうちに指導していく必要があるとのご示唆もいただきました。



高く評価していただいた点については、全教職員で共有化を図り、さらに子供たちを伸ばしていきたいと考えています。

この貴重な機会にいただいた数々のご指導を生かし、令和7年度後半戦に向けてさらなる研修、挑戦を続けていきたいと誓った日になりました。

# 国語力

『ルポ誰が国語力を殺すのか』（石井光太、文春文庫

2025.7）というショッキングなタイトルの本を読みました。

文部科学省が定義している「国語力」とは、語彙力をベースにした「感じる力」「想像する力」「考える力」「表す力」です。この力は、社会という荒波に向かってこぎ出すのに必要な「心の船」。語彙という名の燃料によって、情緒力、想像力、論理的思考力をフル回転させ、適切な方向にコントロールするからこそ大海を渡ることができるのです。

国語力をつける意味（文科省文化審議会）は、以下の3点です。

## 1 個人にとっての国語

知的活動の基礎、感性・情緒等の基礎、コミュニケーション能力の基礎  
生涯を通じて、個人の自己形成にかかわる

## 2 社会全体にとっての国語

文化の継承、創造・発展          社会の維持

## 3 社会変化への対応と国語

価値観の多様化、都市化、国際化、情報化などの変化に対応するために必要

本書には、「遊び」について次のような文章があります。

子供が言語を習得する際に重要なものの一つに「遊び」がある。親や教員から目的を持ってやらされるのではなく、あくまで自発的に発生する遊びの中でこそ、子供は身の回りの世界を探索しながら、五感を使って言葉によって感性や興味を磨き上げていく。そこから物事の因果関係を考えたり、抽象的な概念をイメージしたりできるようになる、徐々に心の中に「辞書」を形成していく。

国語力を磨く上でも、（ゲームではない）子供の遊びを大事にしてあげたいと思います。

# 応援

運動会に向けて、応援団が結成され、練習も始まりました。練習が始まったということは、内容についての検討会議を重ねてきたのでしょう。

先日は、応援団長が二人校長室にやってきました。「9月16日、17日に、各クラスで応援指導を行います」という報告です。その言葉の強さから、運動会に向けての熱い思いを感じました。

